社会との対話による人材育成のエコシステム
―新潟大学創生学部「フィールドスタディーズ」の事例―

国立大学法人　新潟大学
人文社会科学系（創生学部担当）
准教授　澤邉　潤
sawabe@ge.niigata-u.ac.jp

目　次

- **はじめに**：報告の前提と結論
- **「令和の日本型学校教育」と「新潟大学将来ビジョン2030」**
  - 学校教育から大学教育，社会への接続を‘まるごと’とらえる
- **新潟大学創生学部「フィールドスタディーズ」の事例**
  - 人材育成の必要性からみる‘インターンシップ’
  - with/afterコロナにおける取組実施
- **まとめと今後の展望**：‘わたしたち’が当事者になる

Keyword: 人材育成，対話，カリキュラム（教育課程），学生の多様化，持続可能性

はじめに：結論

① どんな状況（with/afterコロナ）でもわたしたちが果たすべき役割（「人材育成」の使命）は変わらない

② 「社会（≒企業，自治体，地域，学校等）」との関わりからの‘インターンシップの捉え直し’が必要かもしれない

with/afterコロナは制約ではなく‘**変革の好機**’
→社会に求められる人材像を中長期的に議論する契機
（方法論的議論だけでは本質的な発展はない）

「令和の日本型学校教育」と「新潟大学将来ビジョン2030」

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）

真の強さを学ぶ。 新潟大學 NIIGATA UNIVERSITY

3．2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ **新学習指導要領では，「個に応じた指導」を一層重視**し，**指導方法や指導体制の工夫改善により，「個に応じた指導」の充実を図る**とともに，コンピュータや情報通信ネットワークなどの**情報手段を活用するために必要な環境を整えること**が示されており，これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たな**ICT環境の活用，少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め，「個に応じた指導」を充実していくことが重要**
- ◆ その際，**「主体的・対話的で深い学び」を実現**し，学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し，**個々の家庭の経済事情等に左右されることなく，子供たちに必要な力を育む**

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ，思考力・判断力・表現力等や，自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため，
  - ・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
  - ・特性や学習進度等に応じ，指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として，子供の興味・関心等に応じ，一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで，子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう，これまで以上に**子供の成長やつまずき，悩みなどの理解に努め，個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援**することや，**子供が自らの学習の状況を把握し，主体的に学習を調整することができるよう促していく**ことが求められる
- ◆ その際，ICTの活用により，**学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ，健康診断情報等を利活用**することや，**教師の負担を軽減**することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう，**探究的な学習や体験活動等を通じ，子供同士で，あるいは多様な他者と協働**しながら，他者を価値ある存在として尊重し，様々な社会的な変化を乗り越え，持続可能な社会の創り手となることができるよう，必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう，**一人一人のよい点や可能性を生かすことで，異なる考え方が組み合わさり，よりよい学びを生み出す**

- 知・徳・体を一体的に育むためには，教師と子供，子供同士の関わり合い，自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験，地域社会での体験活動など，様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が，AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより，異学年間の学びや，ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

2

（引用）文部科学省（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【概要】
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_1-2.pdf （参照日2021年3月2日）

新潟大学将来ビジョン2030–教育・学生支援–

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

【目標1】社会とつながった学修者本位の教育システムの構築

専門性に根差した学びに加え、総合大学の利点を活かした文理にわたる幅広い分野の学びや、地域社会での課題解決学習を組み合わせることで、自身で課題と目標を持って学びができる学修者本位の教育システムを構築する。
例：**企業や自治体の職員と学生が協働して実践的課題に取り組む、いわゆる「共修型フィールド学修」**の充実を図る。

【目標2】デジタルとリアルが融合した未来教育の展開

時間や空間の制約から解き放たれたデジタル教育と、新潟の社会と自然に根ざしたリアルの世界の教育を融合させることで、社会と自然を実感する未来教育を展開し、社会人学生や留学生を含めた幅広いステークホルダーを獲得する。

【目標3】すべての学生が安心して学べる学生支援の強化

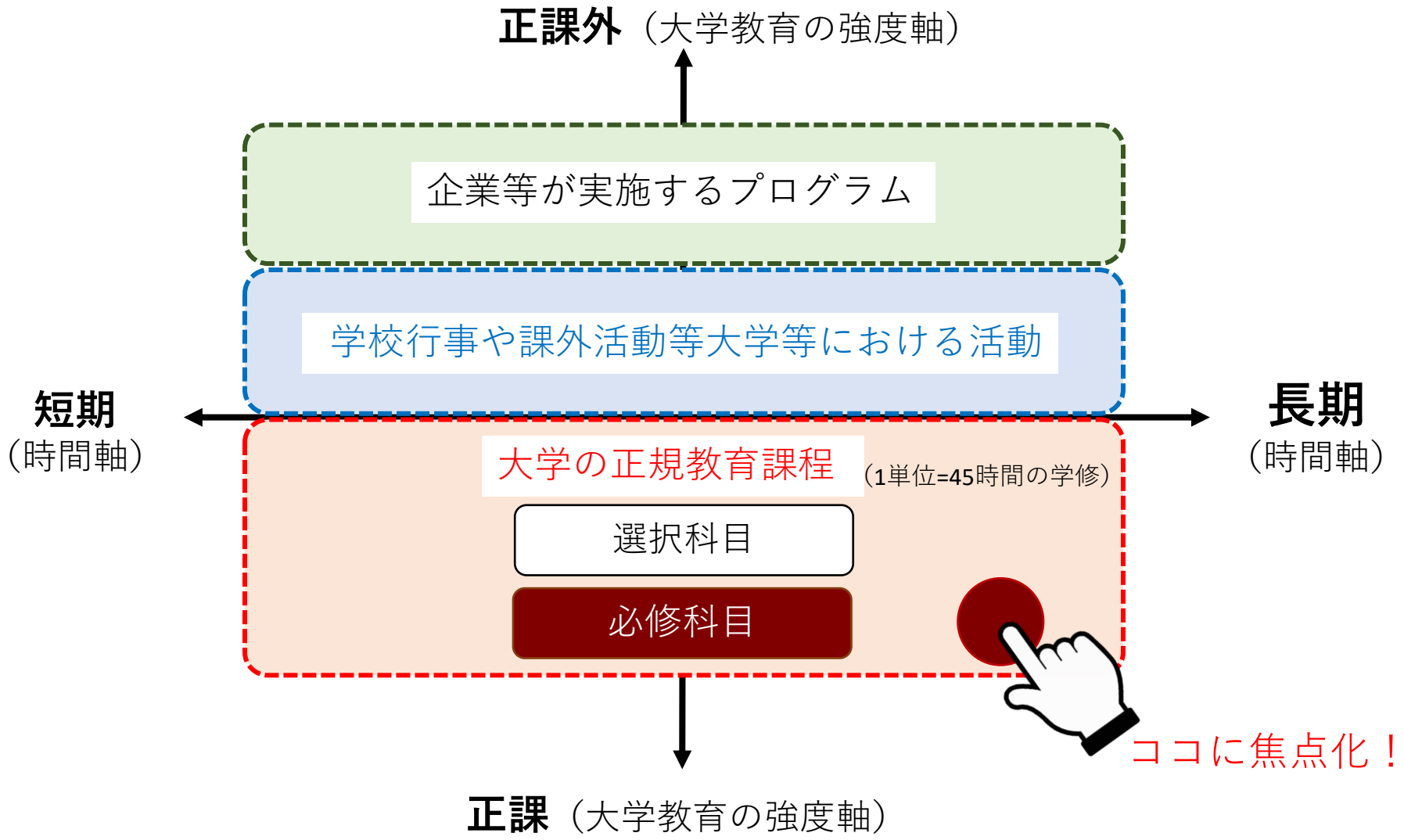
一人一人の学生が生き生きとしたキャンパスライフを送り、夢や希望を叶えることができる学修支援、キャリア支援、経済支援、卒後支援を強化する。

（引用）新潟大学（2021）理念・ミッション・ビジョン　新潟大学将来ビジョン2030
https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/vision/vision2030/（参照日2021年3月2日）

インターンシップの多様化

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

広義の定義：学生が在学中に自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと

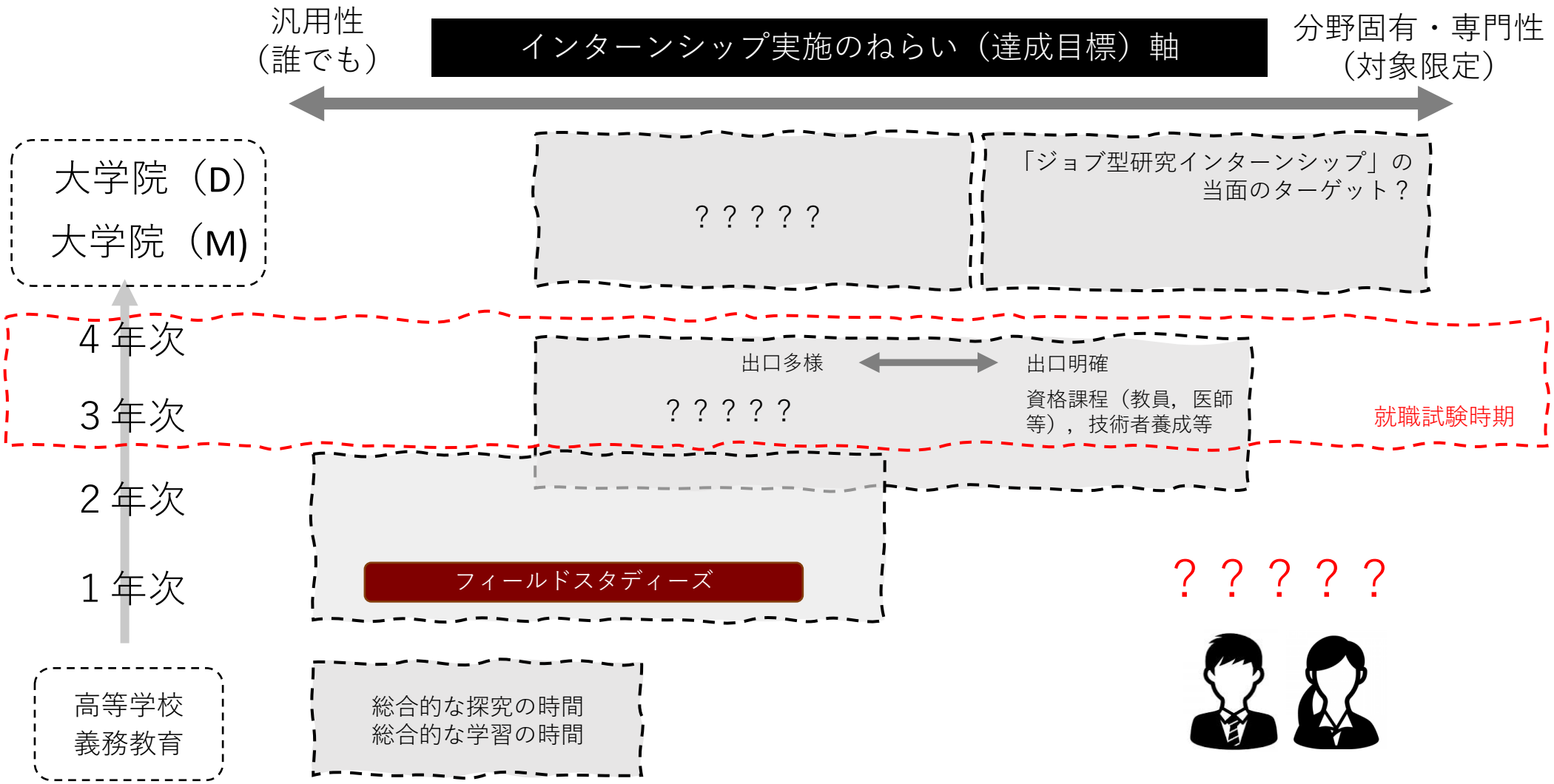


（引用）文部科学省，厚生労働省，経済産業省（1997）「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方（平成27年12月10日一部改正）」
https://www.mext.go.jp/content/20210125-mxt_senmon02-000012347_11.pdf（参照日2021年3月2日）

「インターンシップ」の（再）解釈

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

学生が在学中に自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと
≒企業等の現場のリアルな課題に関与する活動



（引用）文部科学省，厚生労働省，経済産業省（1997）「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方（平成27年12月10日一部改正）」
https://www.mext.go.jp/content/20210125-mxt_senmon02-000012347_11.pdf（参照日2021年3月2日）

新潟大学創生学部
「フィールドスタディーズ」の事例

創生学部（2017.4～）で育成する人材像

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

どのような環境（人口減少社会・知識集約型社会）でも活躍できる「**自己創造型学修者**」の育成

学生　65人
（学年定員）

専任教員　18人
（多様な専門性）

- ✓ 解決すべき課題を多面的に把握できる
- ✓ 課題解決に必要な知識を自ら学修できる
- ✓ 分野の異なる他者と協働できる
- ✓ 自らの専門性も持ちつつ，課題解決を総合的にデザインできる

（参考）新潟大学創生学部ホームページ
https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/vision/vision2030/

（参考）創生学部2020年度オープンキャンパス（オンライン）
https://www.youtube.com/watch?v=KtDIrCmxu80&feature=emb_logo

創生学部カリキュラムと フィールドスタディーズ

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

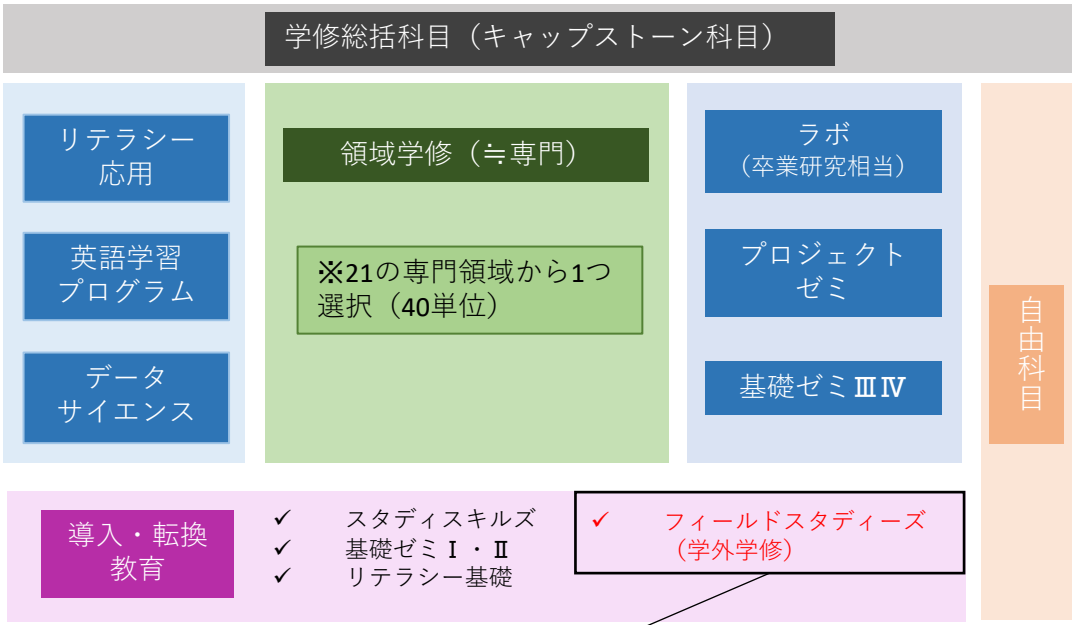
POINT “確かな自分”を創る4年間

4年次
- 課題解決のための実践力強化
- 大学院進学に備えた研究能力向上

3年次
- 専門領域を深める学習
- 課題を把握し分析する技術の修得

2年次
- グローバルに活躍するための語学力
- 課題を分析するためのデータ処理方法

1年次
- 学び続ける習慣をつくる
- ものごとにチャレンジする姿勢を育てる



フィールドスタディーズ（学外学修）
1年次6月～8月実施，必修6単位（270時間）

創生学部カリキュラムと フィールドスタディーズ

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

POINT **“確かな自分”を創る4年間**

4年次
- **課題解決のための実践力強化**
- **大学院進学に備えた研究能力向上**

3年次
- **専門領域を深める学習**
- **課題を把握し分析する技術の修得**

2年次
- **グローバルに活躍するための語学力**
- **課題を分析するためのデータ処理方法**

1年次
- **学び続ける習慣をつくる**
- **ものごとにチャレンジする姿勢を育てる**

フィールドスタディーズ（学外学修）
1年次6月～8月実施，必修6単位（270時間）

【科目のねらい】
✓初年次での学修意識の転換と学修動機づけ
✓体験的学修を通じた産業・地域構造の理解
✓主体的に考えることのできる態度・姿勢

【到達目標】
✓フィールドでの経験を踏まえて，事前に設定した目標（個人，グループ）への達成度を把握できる
✓フィールドの現状について分析的に理解できる
✓フィールド（学外学修先）での活動（もしくは学修成果物）がフィールドの活性化に寄与することができる

（参考）文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」受賞大学等取組概要
https://www.mext.go.jp/content/20200309-mxt_senmon01-000005494_1.pdf（参照日2021年3月2日）

「インターンシップ」と呼ばない理由

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

インターンシップ定義（広義）

「学生が在学中に自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」

創生学部の場合，1年生の6月～8月に実施

- ✓ 専攻（専門領域）の学修が十分でない時期（2年次以降選択）
- ✓ 将来のキャリアイメージも十分でない時期

社会的な課題の現状理解や課題分析につながるものの見方に触れ，学修意識を高める

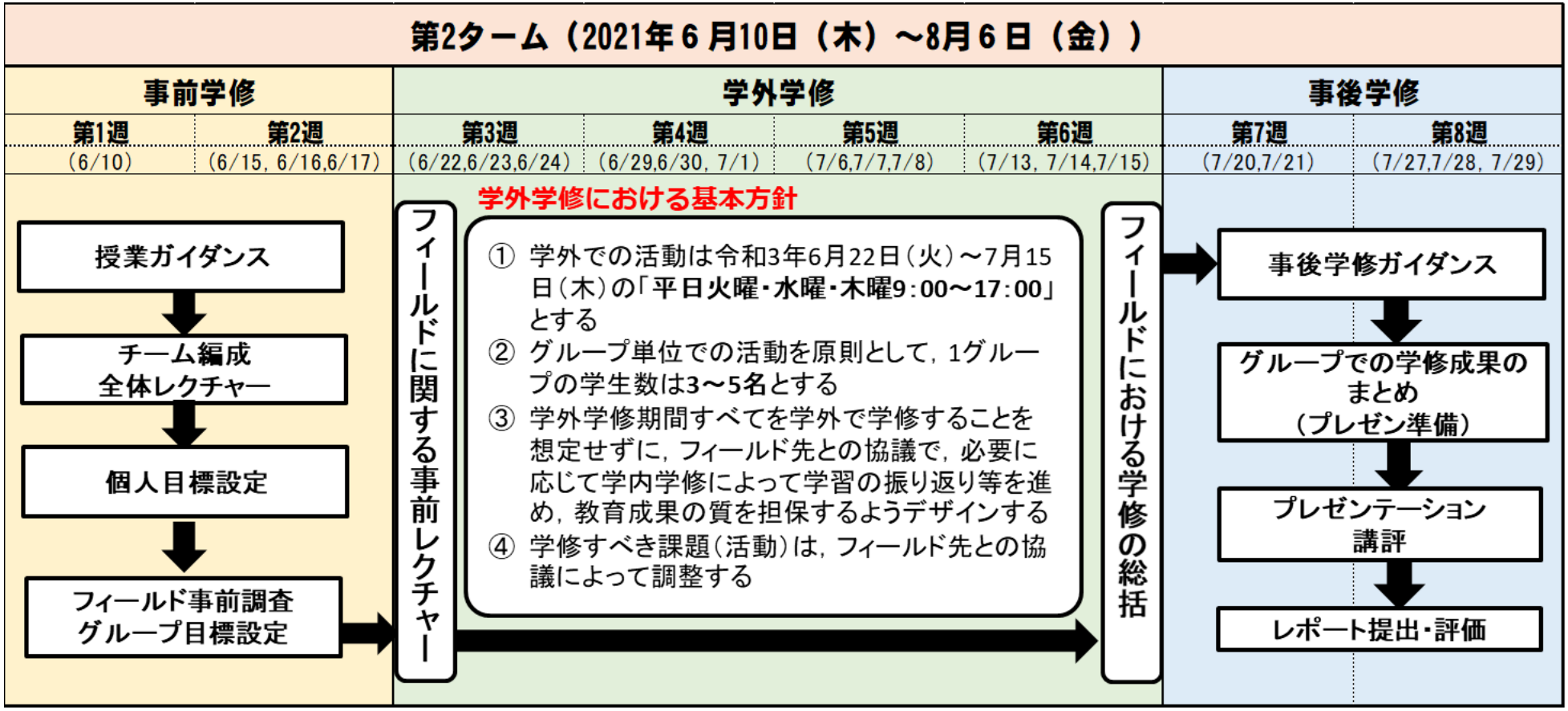
- ✓ 受入機関と学部の相互理解（カリキュラム，取組のねらい）
- ✓ 対話と協働による学修設計（双方のメリットを模索）

（引用）文部科学省，厚生労働省，経済産業省（1997）「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方（平成27年12月10日一部改正）」
https://www.mext.go.jp/content/20210125-mxt_senmon02-000012347_11.pdf（参照日2021年3月2日）

「フィールドスタディーズ」の概要

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

- ✓ 8週間の学修（事前学修2週，学外学修4週，事後学修2週）
  →平日火曜日，水曜日，木曜日（1~5限）をすべて活用
- ✓ 受入機関の学修テーマに学生がチーム単位で学修
  →教員6名（1人が2~3機関を担当），事務部が全体サポート（教職協働）



（参考）創生学部フィールドスタディーズ（学外学修）2020年度リーフレット
https://create.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/05/fs_leaf2020.pdf

〔参考〕学修テーマ（2020年度）

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

受入機関名（五十音順）		学修テーマ
あおやまメディカル株式会社		SDGsに配慮した福祉用具の（リ）サイクル提案資料の企画・作成
燕市　商工振興課		商店街のリノベーション『まちの付加価値向上をデザインする』
長岡市　中心市街地整備室		中心市街地活性化に向けた施策立案
新潟経済同友会	株式会社当間高原リゾート	地域の魅力を活かした新たな「ショップ」のデザイン
	株式会社コメリ	ビッグデーターとリアル店舗を融合した地域貢献事業を考える
	株式会社たかだ	リノベーションによる空き家利活用の仕組みづくりの提案
	ツインバード工業株式会社	あったらいいなと思う家電製品の企画提案
	福田道路株式会社	建設業の社会的役割と魅力を表現したオリジナルキャラクターの企画・提案
	ヤマト運輸株式会社	新しい荷物の送り方・受け取り方の企画・立案
株式会社新潟ケンベイ		購買層を意識した精米のPR・販売の企画・提案
新潟県立自然科学館		科学館の来館者層からターゲットを絞り、魅力的な科学に関する展示の制作
新潟県労働金庫		大学生向け金融教育ツールの制作
新潟市　西区役所地域課		西区自治協議会の仕組みと活動を'楽しく'発信する番組制作
富士ゼロックス新潟株式会社		クラウド、モバイルサービスを用いた「新しい働き方」や「業界課題解決策」の提案

✓ 学修テーマ設定のポイント

- リアリティのある課題設定（仮想課題はNG）
- 科目の到達目標に照らして，受入機関に過度の負担を強いる活動とならないよう配慮

✓ 学外学修（4週間）設計上のポイント

すべての時間に受入機関担当者に対応していただく必要はなし（全体の学修活動で学修時間を確保する）

例）ある1週間（3日間）の学修

1日目：午前は大学で準備，午後は受入機関での座学

2日目：フィールドの調査（現場見学）

フィールドワーク後，大学で振り返り

3日目：大学で今週の学修振り返り

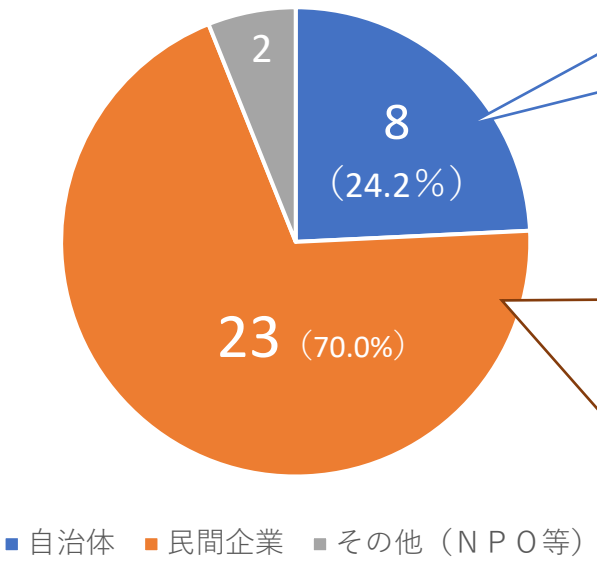
週報作成，次週の目標設定（メール等で報告）

（参考）創生学部フィールドスタディーズ（学外学修）2020年度リーフレット
https://create.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/05/fs_leaf2020.pdf

〔参考〕受入機関の多様性

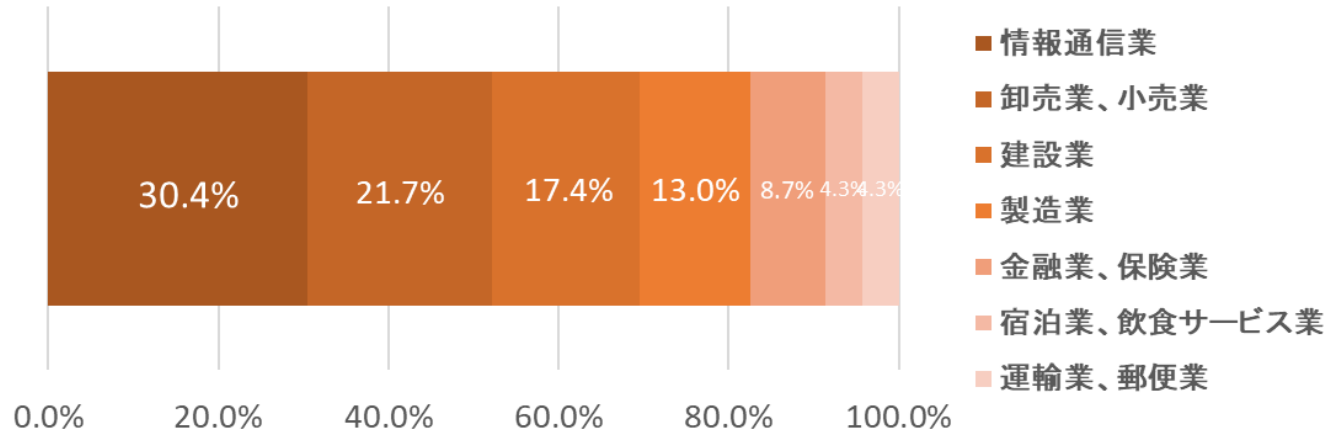
真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

受入機関数　**33**（2017年度～2020年度）



新潟県内の自治体

（新発田市，燕市，長岡市，新潟市）※1機関複数部署で受入



※21社が新潟県内，2社が首都圏
※新潟経済同友会との連携で受入機関を調整（毎年6社程度）

〔参考〕コロナ禍での実施（2020年度）

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

- 受入機関数１３（自治体３，民間企業１０）
- 「対面と非対面」の併用or「非対面のみ」での実施

→受入機関指定のオンラインツール使用（指定がなければZoom）

→ネットワーク環境（モバイルルーター），PC貸与対応

学外活動ガイドライン

✓ 非対面（オンライン）による事前学修，学外学修，事後学修（プレゼンテーション）

→感染症拡大防止ガイドライン作成，対面による学外学修機会は3回程度

✓ 学外移動は共用自動車（公共交通機関利用NG）

→教員同行，健康観察・記録の徹底

（参考）新潟大学　新型コロナウイルス感染症に関する対応（2021年3月1日更新）
https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/covid-19/

〔参考〕学生アンケート結果（2019v.s.2020）

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

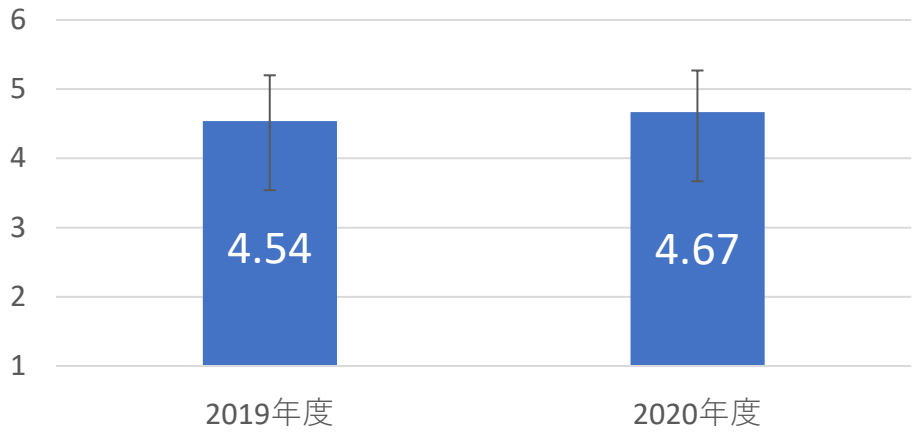


図１　授業科目全体の満足度（５段階評価）

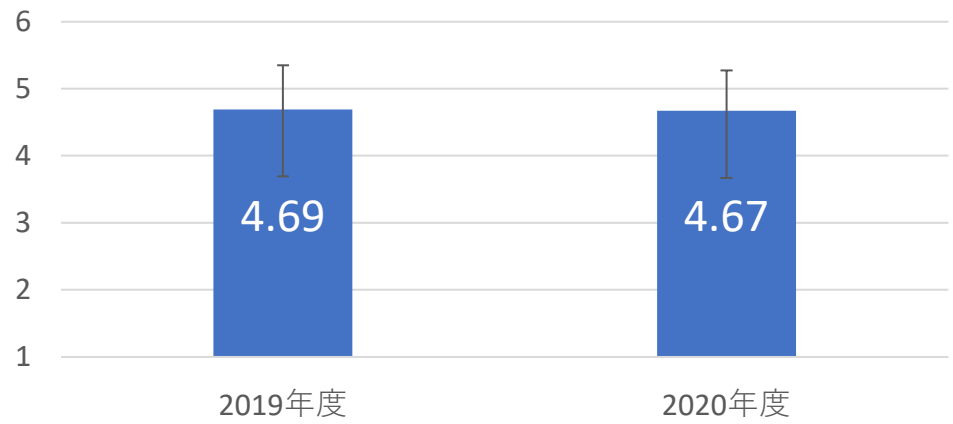


図２　学外学修（４週間）の充実度（５段階評価）

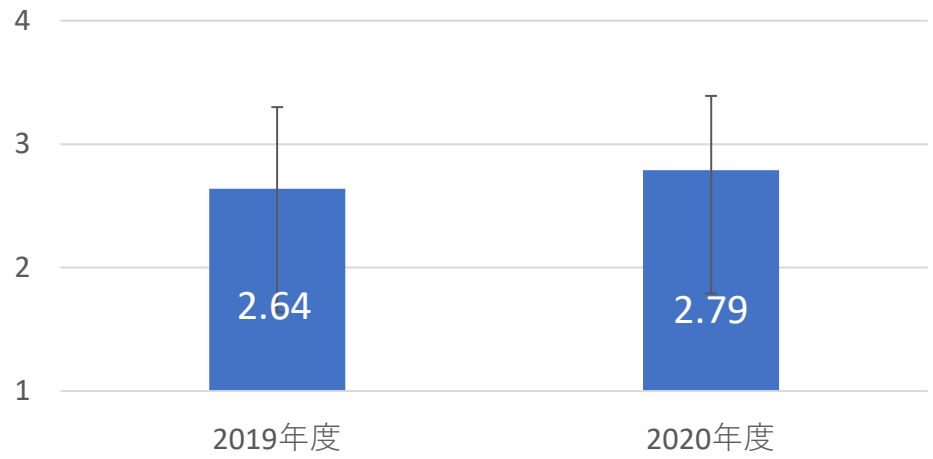


図３　単位の適切性（４段階評価）

- ✓ **学生の科目への評価は例年通り高い傾向**
  2020年度は実施自体が評価？
  学生支援，大学への適応の支え？
- ✓ **フィールドでの充実度も高い傾向**
  コロナ禍でも受入機関が十分な学生対応をしてくれた可能性
- ✓ **単位数への‘不満？’は例年通り**

※2019年度（N=67），2020年度（N=48），エラーバーは標準偏差
※2019年度と2020年度の学生評価得点の平均値に有意差なし

「受入-実施-まとめ」までの対話サイクル

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

説明会
- 創生学部の概要（カリキュラム）説明
- 学外学修（フィールドスタディーズ）説明

前年度11月

受入検討
- 受入希望（可否）に関するアンケート依頼
- 受入機関，人数などの調整・ご相談

前年度2月

個別調整
受入手続き書類（受入承諾書，協定書等）調整
受け入れ先プロフィール，学修テーマ設定

実施年度4月

個別調整
- 学外学修期間の具体的計画（学生の移動など）
- フィールドプレゼン，学内最終プレゼン日程確認
- フィールド選択ガイダンス

実施年度5月

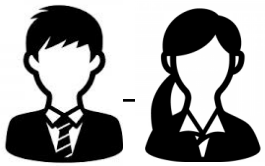
実施
- 事前学修／学外学修／事後学修の協働的実施
- 学修中の学生へのサポート
- 週報などへのコメント

実施（6月～8月）

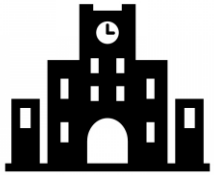
報告
- 事後アンケート，座談会の依頼
- 学外学修報告書へのコメント依頼

実施年度8月～10月

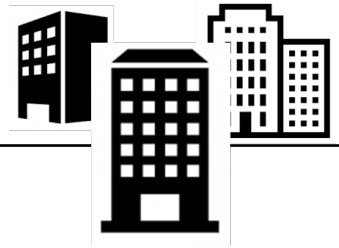
（素朴で根深い）よくある課題への対応



- 学生の時間確保
  （学生は忙しい）
- 学生の属性，興味関心の多様化



- 学外学修実施に係る教育コスト
- 受入機関との連携・調整コスト
- 特定教職員への負担の集中



- 学生受入のメリット
- 受入担当者の負担増
  （コスト，時間）
- 学生対応の難しさ
  （関わりのバランス）

✓ コストのコントロール（調整コスト軽減≒学長，学部長リーダーシップ）
必修科目で時間調整，学生の視野を拡張，学修コストは大学負担

✓ 負担感のコントロール（心理的負担軽減≒関係者のメンバーシップ）
取組のオープン化，無理のない継続的な連携，人材育成の時間軸

（参考）澤邉潤，木村裕斗，松井克浩（編）（2019）長期学外学修のデザインと実践，東信堂
https://www.toshindo-pub.com/book/91554/

〔参考〕その後の学生の成長

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

https://www.youtube.com/watch?v=EVcZ6QzcL-0

- 2017年度　1年生（フィールドスタディーズ）
  →阿賀町（人口減少，過疎地域）の魅力を発信する提案
- 2018年度　2年生（専門領域の選択）
  →農学領域「生物資源科学・流域環境学」を専門分野として選択
- 2019年度　3年生（研究室配属）
  →農家を応援するプロジェクト（新潟市西区役所，農家と協働）
- 2020年度　4年生（卒業研究）
  →上越市と妙高市における拠点の階層性に関する調査研究

長期学外学修プログラム紹介動画（2020年3月公開）ダイジェスト版

Q.長期学外学修科目を受講しての感想は？
Q.将来のキャリアに役立つと思う点は？

5学部（創生学部,人文学部,経済学部,理学部,工学部）
6名の学生の声

https://www.youtube.com/watch?v=9A_kEF9EaWU&feature=emb_logo

まとめと今後の展望

まとめ：‘変革の好機’を逃さない

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

① どんな状況（with/afterコロナ）でもわたしたちが果たすべき役割（「人材育成」の使命）は変わらない

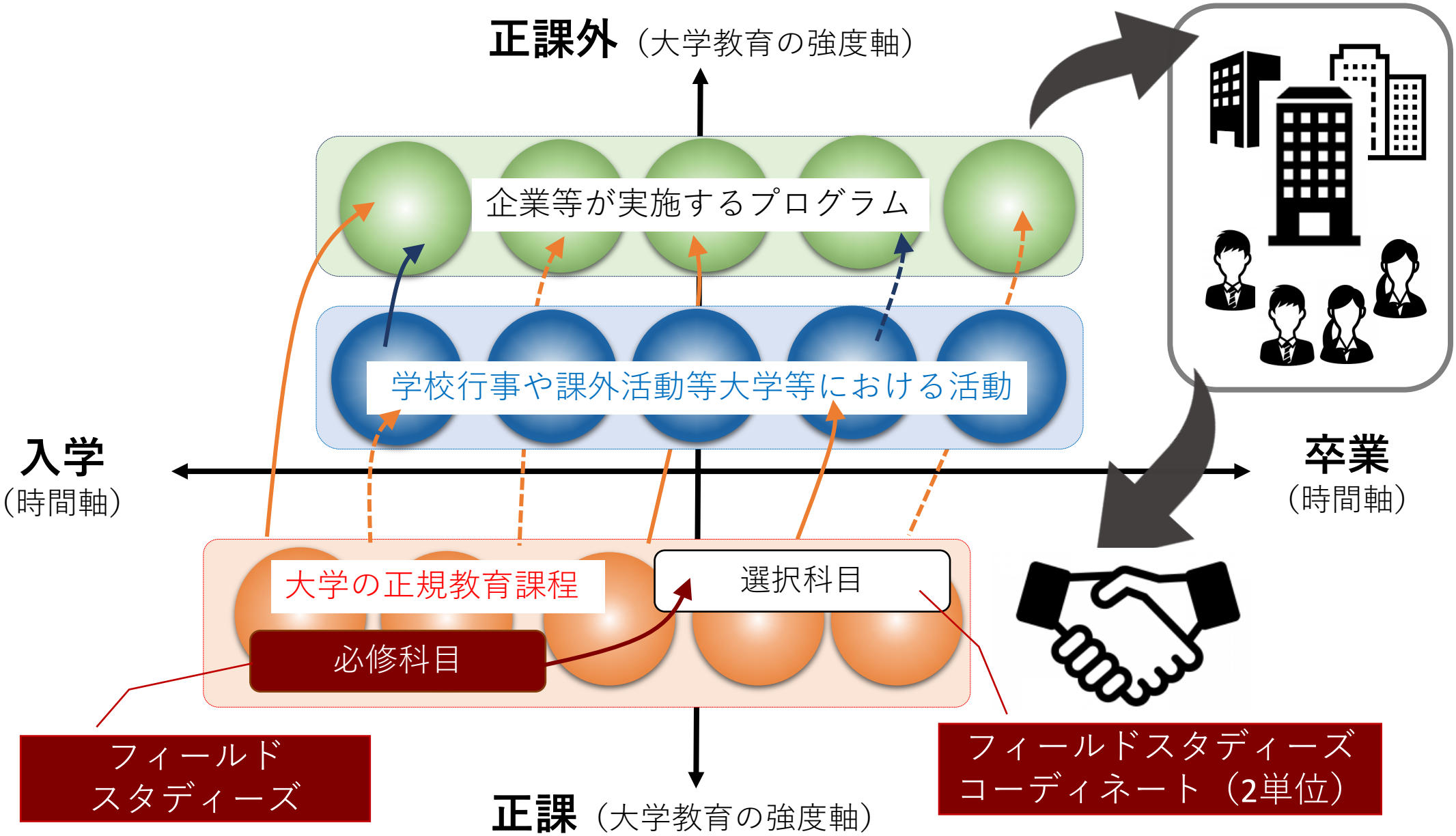
- ✓ 教職員の意識・役割転換（「教える」から「導く」へ）
- ✓ 社会変化，キャンパスライフの多様化への対応

② 「社会（≒企業，自治体，地域，学校等）」との関わりからの‘インターンシップの捉え直し’が必要かもしれない

「点」から「面」の連携で日常的な対話からニーズを交換

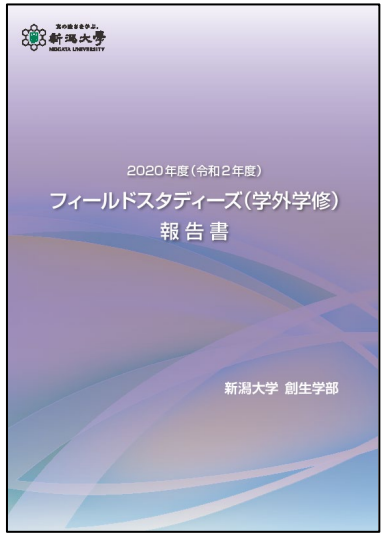
有機的連携と持続可能な協働サイクルへ

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY



課題と今後の展望

- 取組の持続可能性
  予算＜覚悟
- 取組の意義・価値の社会発信
  伝わるように伝える努力



わたしたちから‘**社会**’へ働きかける